

OPINION 「派遣添乗員は旅行業界の宝物」 添乗サービス業の現状と今後の課題

顕著になってきた応募者減少と 定着率低下への対応

昨今、添乗員募集を試みてもなかなか添乗員のなり手がなく、添乗派遣会社においては添乗員の確保に苦勞をしている話を耳にするようになってからもうどれくらい経ったか？

労働者派遣法が制定されてから、すでに20余年が経過しているが、添乗員派遣という職種の認知度の低さもあいまって、雇用がなかなか確保できていない。

添乗員派遣業は派遣先、取引先が旅行業界であるため、季節的波動が大きく就業機会が不安定であり、また、事件や事故、疫病などの外的要因によっても大きく左右される業界である。添乗業務中においてはさまざまな旅程管理業務、参加客への接遇対応などがあり、いざ添乗の実務に就いてみると、交通事情等により予定以上の長時間を拘束され、土産物の販売など旅程管理以外の業務にも従事することも多い。また、昨今は個人情報管理や取引先情報管理など、旅行会社からの求める能力も以前と比しても格段と変化しているのは事実である。

現在、添乗派遣業界で雇用している添乗員スタッフの年齢別では30歳から34歳の添乗員スタッフが一番多く、登録スタッフの平均年齢においても平成9年には29.9歳であったものが、平成17年の調査では平均年齢が36歳と毎年上昇を続けている。この傾向は今後も続くと思われる。また、添乗員スタッフの平均経験年数においては、平成9年の調査では4.4年であったのが平成17年度においては平均7.5年との結果がでている。

平均経験年数は長くはなっているものの、逆に短期間で添乗員をやめてしまうスタッフも多くなっている。そして添乗員スタッフの意見としては労働条件、労働環境に関する不安や不満が根強くある(TCSA調査)。

添乗員派遣業界として長い間曖昧にしてきた労働条件、特に労働時間に対する給与支払や社会保険加入等、待遇向上の実現を早急に改善し、派遣先に対しては業務内容の専門性、知的

能力、接客能力、体力・気力までが不可欠なもの、添乗員同行旅行の意義、旅程管理主任者であることを再度認識していただき、添乗員同行旅行の付加価値に見合う報酬を求めていくことが必要である。

熟年者の積極的な 活用も今後の課題

魅力的な業界に発展させながら、これからの人材発掘をしていく上での新しい視野として、添乗員イコール新卒者・若者の図式だけでなく、まもなく定年退職となるであろう団塊の時代を過ごしてきた人たちに添乗員採用層の範囲を拡大し、雇用を積極的に行っていく必要があるのではないかと。個人個人の持っている豊富な社会経験を活かすことができる対人サービス業である添乗員に向いている。新しい人材の供給分野として注目して、添乗員派遣業界で活躍していただくためにも門戸を広く持つべきである。

また、同時に添乗員派遣業界の社会的な認知度を上げていくのも大変重要なことである。一般には添乗員派遣そのものが派遣業務ではなく、派遣先の社員の添乗と認識されがちだが、添乗員の大半は派遣会社より派遣をされているのが実情である。この現実を広く社会に宣伝してアピールをしていけば、「添乗員になりたいけれど就職先がわからない」、「年長的にも旅行会社に再就職できない」と悩んでいる人も少なくなり、より一層の添乗員の確保につながる筈であると信じている。

宝物である派遣添乗員の確保と維持のために、雇用条件・労働条件の改善と向上、就業機会の安定確保が非常に大切であり、添乗員派遣業界の努力だけでなく、派遣先旅行会社各社のご協力が不可欠であることを再度申しあげたい。



TCSA理事
 (株)エコーインターナショナル
 代表取締役社長

竹内 一修氏

CONTENTS

OPINION ————— 1

「派遣添乗員は旅行業界の宝物」
 添乗サービス業の現状と今後の課題
 (株)エコーインターナショナル 代表取締役社長
 TCSA理事 竹内 一修氏

特集 ————— 2

ツアーコンダクターの労働環境・処遇改善への
 TCSAの取り組み

TOP INTERVIEW ————— 4

ANAセールス(株)代表取締役社長
 四十物 実氏をお訪ねして

TCSA REPORT ————— 6-7

“ツアーコンダクター・オブ・ザ・イヤー2007”表彰式晴れやかに実施
 2000日添乗員のコソコソ奮闘記 ㊸

TCSAだより ————— 8

平成19年度東京都委託訓練(離職者等再就職訓練)を初受託、10月開始
 会員動向 編集後記

特集!

ツアーコンダクターの労働環境・ 処遇改善へのTCSAの取り組み

社会問題化 しつつある 添乗労働



高速バスや宅配会社のドライバーの労働実態とともに、いまや旅行添乗実態がマスコミで度々報じられ、TCSAは今この問題に従来以上の緊迫感をもった迅速な対応を求められています。

景気回復とともに経済界ではいっせいに非正社員の賃金、待遇の改善が加速し、遅れをとっている当業界での人材確保は益々困難な状況となってきています。

現状を放置すれば、労働市場において当添乗派遣業界は敗者になるリスクをはらんでいるのです。

「厚生労働省の指針が出るのを待って対応したい」と一向に改善の兆しさえ示されていない大手旅行会社もあり、TCSAはもうこれ以上待てない限界まで来ています。

コンプライアンス 徹底のための是正



旅行会社の社員が添乗をしていた時代の業務の在り方が、長年業界の慣例として行われてきましたが、早急に是正されねばならない課題が下記の通り浮上してきています。

1. 添乗前に行われる打合せ、事後の精算業務に関して時間管理による適正派遣料金の支払

添乗打合せ、精算業務は派遣先事業場内で行うことが一般的であることから、派遣先旅行会社による実時間管理が可能な業務である。当該業務は派遣の就労日にあたることから、往復時間を勘案して2時間を最低保証とし、実際に業務遂行に要した時間を乗じた派遣料を支払う。

2. 深夜・早朝労働に対する派遣料の支払

添乗労働をみなし時間適用とするか、実時間管理するかに拘らず、労働基準法において深夜労働時間の労働に対しては所定の割増賃金を支給することが定められている。ついては、あらかじめ旅程上当該時間にまたがる場合はもとより、添乗中の非常事態の発生、交通渋滞等による遅延、現地におけるオプションツアー等による早朝・深夜の労働については、国内・海外旅行を問わず法定の割増率をかけた額の支払を申し受ける。

3.1 暦日を超えた添乗業務の取扱いについて

添乗最終帰着日の添乗業務が0時(24時)を超える場合は、翌日にかかる派遣との考え方により、1日分の追加派遣料を申し受ける。

TCSAから業務改善を要請

TCSA会員会社の多くが取引を行っている旅行会社宛に下記事項等の改善要請を行っています。

1. 添乗中の安全管理配慮

大型バスを利用する旅行において、添乗員に対して正シートの割り当てがなされず、シートベルトの無い補助席やガイド席の使用を余儀なくされ、急停車等により添乗員が事故に遭遇するケースが多発している。国内外を問わず、添乗員に正シート(業務の性格上出来る限り2席分)を確保していただきたい。バスの走行中において車中を移動して販売、集金等をせざるを得ないような過度の物品販売および試食品の携行等を自粛していただきたい。

2. 旅行参加客および添乗員の個人情報保護について

個人情報保護法の定めに従い、派遣先旅行会社は派遣された添乗員の個人情報については旅行参加客等には公開しないでいただきたい。

派遣添乗員の個人情報保護に関しては、予め派遣先旅行会社と派遣元添乗員派遣会社の両者において取り決めを明記した契約書または覚書を取り交わしていただきたい。

派遣先旅行会社は国内外旅行を問わず業務用携帯電話を貸与することに取り組んでいただきたい。

旅行参加客の個人情報の流出を防止するために、派遣先旅行会社が派遣添乗員に提示、携行を求めた情報は、当該旅行の添乗業務を遂行する上において最低限必要な情報に留めることをシステムとして構築していただきたい。

3. 添乗業務に付随するその他の業務に関して

旅行参加客への事前対客電話の業務が課せられる場合は、打合せ業務とは別手当とし、1時間以内としてあらかじめ定めた料金を収受するものとし、連絡がとれず自宅等に持ち帰って行わざるを得ない場合は、1件につき一定額を通信費込みの対価として収受する。

顧客アンケートの集計が精算時に課せられることについては、原則として派遣先の業務として撤廃を要望するが、業務が命ぜられた場合は別手当として支給を要望する。

車内における物品販売の見本品携行については、極力添乗員の負担を軽減する措置を講ずることを要望する。本来旅行会社が遂行すべき業務であるにも拘らず、実態として添乗員に課せられている付随業務については旅行会社に返上することを基本とするが、要請により添乗員が代行して遂行する場合は、労力および当該業務を遂行するために必要な拘束時間を勘案し、業務に見合う手当を要望する。

4. 現金携行リスク回避について

旅行代金、保険料、燃油サーチャージ等の集金および釣銭の用意等は極力避けていただきたい。また、多額の現金携行リスクは回避する方法を考慮していただきたい。

結論として

バブル崩壊後、生き残りをかけて質より量に走った旅行会社が下請企業をたたきコストをぎりぎりまで下げてきた結果が現況を生み出しました。

付加価値の高い旅行の演出が可能な優秀な人材を確保するためには、処遇の改善は必須であり、そのためのコストは旅行に参加されるお客様に負担していただく流れを今構築しなければ人材流出は避けられません。

来年度の商品造成に間に合わせるためには、早期の行動が求められています。

ANAセールス株式会社

代表取締役社長 四十物 実氏

JATA世界旅行博のプレゼンテーションの準備でお忙しい中、ANAセールス(株)の四十物社長をお訪ねいたしました。



三橋専務理事(以下三橋) ANAセールスの社長がANAの上席執行役員としてANA営業推進本部の副本部長をご兼務なさるのは四十物社長が初めてでいらっしゃいますか。

四十物社長(以下四十物) この会社はANAの営業戦略会社として2003年にANAグループ旅行3社が統合して旅行事業とエアラインセールス事業の双方を担う会社としてスタートしましたので、初めてです。



三橋 ご就任後次々に新しいご提言をなさり、WEBへの販売チャネルのシフトなど“旅”の流通改革をいち早く手掛けられたと伺っておりますが。

四十物 ITの進化やeコマースの拡大、お客様ニーズの多様化など、旅行市場の環境が急激に変化しています。従来のパンフレット商品だけでは対応できなくなりつつあります。お客様の生活スタイルに合わせ、24時間いつでも予約購入が可能なWEBサイトをANAと統合し、「ダイナミックパッケージ」旅

作」を発売しています。今後もITインフラの整備には積極的に取り組んでいきたいと思っています。

三橋 中国への旅行客を大幅に伸ばしておられますね。

アジアを代表する航空会社ANAと共に 中国市場NO1を目指して

四十物 日中国交正常化35年、ANA中国線就航20周年ということもあって、今年最も力を入れています。岡崎元社長のご縁もあり、中国に関しては特に全日空グループとして戦略的に力を注いできました。アジアを代表する航空会社という位置

付けからは、政府のアジアゲートウェイ構想、オープンスカイ政策も追風となり、今年下期の中国旅行は前年比で26%増にあたる15,800人を目標としています。

中国はパッケージ商品が中心であり、まだまだ旅行会社の果たす役割は大きいと思います。今年で5回目となる「杭州ふれあいウォーク」には日本から参加されたお客様と中国側からの参加客とが楽しい交流をし、日中交流年に相応しいイベントとなりました。また、大連は、かつて日本の拠点があったことから日本語教育が進んでおり、全日空が初就航したことにより日本企業の進出を加速させました。

下期には、従来の周遊型に加えてモノデスティネーションの滞在型、例えば北京4日間などのツアーにも添乗員を同行させ、付加価値を増す企画を実施します。「故宮博物院」では通常非公開の清朝最盛期の乾隆帝にちなんだ部屋の特別見学をし、美食家で知られる乾隆帝の堪能したと思われる宮廷料理を特別に再現して、博物院のレストランで楽しめるコースを設定しています。伝統と歴史を誇る広大な国、中国は種々なテーマを秘めており、海南島では少数民族村での異文化体験、麗江では世界遺産の街並みを歩く古城ウォーキングなど、知的好奇心旺盛な団塊世代や女性層向けの「おとな旅」を提案しています。

三橋 中国の歴史にお詳しいんですね。ところでヨーロッパツアーはいかがですか。

四十物 ANAの航空座席が限られているため、高付加価

値型のツアー「少人数で行くヨーロッパ」などプレミアム感のある旅行を企画しています。少人数のメリットを生かして大型バスでは入れないエリアの観光や、団体を受入れない高級レストランやホテルに宿泊するツアーなどです。最近ビジネスクラスを利用されるお客様が増え、夏場はエコミーとの差額が少ないこともあり、ハローツアーに参加された2,000名中、4分の1がビジネスクラスを利用しておられます。ヨーロッパのようなロングフライトでは、その価値が分るお客様の層が増えているのだと思います。ハローツアーの販売額では、ヨーロッパ方面が4割近くを占めています。シニア層が増えてきているのも一因と考えられます。

三橋 2名参加でもツアーコンダクターが同行する「最上の旅」の販売状況はいかがでいらっしゃいますか。

四十物 8月の販売開始日に3名の申込みがありました。航空機にビジネスクラス、宿泊に5つ星ホテル、食事にはミシュラン星付きレストランを厳選するという5コースを設定しています。これらには、添乗日数1,000日以上上のベテランツアーコンダクターが「旅のコンシェルジュ」として同行します。例え高額でも価値のある旅行の需要は伸びていくと確信しています。

三橋 コンシェルジュは御社のツアーコンダクターの方のことですが、お客様のニーズを企画に活かしていくという観点から社員添乗を増やしていくお考えでいらっしゃいますか。

■ 企画から添乗まで一貫した流れで ■ お客様とのより密接なコミュニケーションを

四十物 自社、派遣を問わず、優秀なツアーコンダクターの方々がリピーターを増やしています。一部の会社のように、企画、造成、販売、そして総仕上げとして添乗が行われるような一貫してお客様の声を聞きながら次に繋げ、その結果品質が良くなるような流れが当社でも必要と思います。さらに、お客様にとって責任者の顔が見えることが大切であり、できるだけ消費者と直接コミュニケーションをとれるようにしていきたいと考えます。

当社にクレームを寄せてくださるお客様は、ANAブランドや



ハローツアーに愛着や信頼を持っていただいている方々です。改善に向けては積み重ねが大事と言われてはいますが、それをやれるか、やれないかがポイントです。当社のグループ全体で社員が1800人いますが、各人1人ずつ改善に向けて進んでいく考えです。

三橋 社長は航空会社に長くご勤務されておられましたし、各地にご旅行されたことと思いますが、特に感動されたりご自身の印象に残っていらっしゃる旅行をお聞かせいただけますでしょうか。

四十物 ANAで路線開発や、共同運航契約を担当していたこともあり、世界各地へ行きました。調査や開発で行った辺境の地、雨季のネパールやカンボジアのアンコールワット、インドのタージマハールも印象深かったですね。同じくANAの時代に航空機の受領で訪米の往路に立ち寄ったカナディアンロッキーと氷河ハイウェイの雄大さ、この世のものとは思えない景観の素晴らしさに感動した思い出があります。5~6年前に他社の添乗員同行ツアーで中国に行ったことがありますが、今後自社のハローツアーに参加してツアーコンダクターの方々の働きぶり、ご苦労を身近に感じたいと思っています。

三橋 最後になりますが、協会に対してのご提言、ご要望を伺わせていただけますか。

■ トラブルや事故を防ぐための ■ 情報の共有化に向け ■ TCSAは添乗関連情報の発信を

四十物 当社でも自社内に添乗を専門職とする社員を擁して、彼等のレベルを上げる努力をしています。しかしながら、ツアーコンダクターの待遇改善やレベルを上げることは1社単独では難しい面もあります。業界慣行を変えたり、事故を防ぐためには、事例などの情報の共有が大事なことです。協会は添乗に関する我が国の総元締めとして、添乗に関わるあらゆる情報を発信していただき、業界内で情報が共有できるよう努力していただきたいと思っています。

三橋 ご指摘は協会がまさに重要課題として取り組んでいるポイントでございます。本日はお忙しいところ貴重なお話を聞かせいただきありがとうございました。



中国史に造詣の深い四十物社長の楽しいお話に思わず引き込まれ、インタビュアーの任務がおろそかになりそうなひとときでした。

Tour Conductor of The Year 2007



“ツアーコンダクター・オブ・ザ・イヤー2007” 表彰式晴れやかに実施

添乗を専門職とする人たちに希望と光を与え、プロのツアーコンダクターの方々全体のモチベーションアップを図ることを目的として、昨年創設された旅行業界挙げての表彰制度、ツアーコンダクター・オブ・ザ・イヤー。第2回目を迎えた本年、表彰式が9月14日東京お台場ビックサイトで開催された「JATA世界旅行博」会場のメインステージで実施されました。今回は、添乗員派遣会社、旅行会社から16名の候補者推薦があり、選考委員会(吉村作治委員長)によって2回に亘る厳正な選考の結果、グランプリをはじめとして6名の方々が受賞いたしました。

当日は多数の入場者が見守る中、特別賞受賞の3名にTCSA山田会長からの授与、準グランプリ受賞の2名には吉村委員長から授与が行われ、最後にグランプリ(国土交通大臣賞)の栄誉に輝いた原さん(添乗中のため夫人代理出席)には、国土交通省の西阪観光担当審議官から表彰状と賞金および副賞が授与されました。副賞には第1回目に引き続き大塚製薬製品の他、上位3名にはJTB商事から旅行用スーツケースが提供されました。

第2回受賞者

グランプリ

(国土交通大臣賞)

原 好正さん

日通旅行ビジネスサービス(株)
所属



受賞理由

添乗経験34年、通算6696日。今年、TCSA永年勤続特別功労表彰初代受賞に選ばれる。フードジャーナリストとして旅と食の講演、執筆多数あり。8か国語を操り、財界代表の北欧投資事情視察団の添乗・通訳を担当。また、20年以上、視覚障害や車椅子の方々に参加する「目の不自由な方々の為の巡礼の旅」にも添乗するなど、あらゆる旅の演出家として感銘を与える。添乗業務のほか、社内講師など後輩指導への貢献も評価された。

準グランプリ

(選考委員会委員長賞)

小田中 康浩さん

(株)ジャッツ関西 所属



受賞理由

通算5060日、評価点ほぼ100点。歴史・文化・芸術への造詣が深く、スペイン日本週間では日本文化・技術を紹介し、交流団の参加意義を高めることに貢献。エジプト建築視察ではその博識ぶりに参加客から激賞をもらう。毎朝発行する旅のかかわる版やプロ級の手品で顧客の満足度UPを図る。昨年のタイクーターでは沈着冷静な対応で回避し、参加客の不安感を払拭して賞賛された。

準グランプリ

(選考委員会委員長賞)

中屋 雅之さん

(株)ワールド航空サービス
所属



受賞理由

添乗以外にも営業や辺境地企画開発などを担当し、講演活動も多数あり。イスラムに造詣が深く、建築と宗教に関して月刊誌で53回の長期にわたって執筆、単行本「教会建築とキリスト教世界」を発刊している。「幻の楼閣ツアー」では、軍事演習で運行不可の事態に素早く対応し、無事目的地に到達。他のツアーが断念する中、高評価を得るなど、昨年は全添乗評価で抜群の好成績を残した。添乗員の地位向上に多大な貢献をし、旅の伝道師の役割を果たした。

特別功績賞

(日本添乗サービス協会会長賞)

山本 直幸さん

(株)JTBサポート
インターナショナル 所属



受賞理由

絵画・歴史に造詣が深く、クラシック全般にも精通しており、音楽ライブデスクのツアープランナー、専任コーディネーターを15年務めた。「モーツァルトイヤー」である昨年のザルツブルク音楽祭では40日間専従し、券の確保に尽力した。「旅と音楽のコンシェルジュ」で活躍し、TVやラジオ出演のほか、音楽誌に旅行エッセイを19回連載するなど、エッセイストとしても活躍。多くのマスコミに取り上げられ、ツアーコンダクターの職業としての魅力づけに貢献した。

特別功労賞

(日本添乗サービス協会会長賞)

仲田 勢津子さん

(株)JTBワールド
パケーションズ 所属



受賞理由

女性では最長の通算5651日。知識、品格、誠意、度胸をバランス良く兼ね備え、社内、社外ともに人望を集めている。添乗中は黄色いスーツを着用して目立つようにするなど気配りが行き届いたサービスを実施。参加客個々のニーズを的確に把握し、現地の関係者の間でも抜群の評判を誇る。各種セミナー、後輩ツアーコンダクター採用教官、指導官に尽力しており、昨年度は関東運輸局観光従事者局長表彰を受賞した。

特別奨励賞

(日本添乗サービス協会会長賞)

庄司 文子さん

(株)フォーラムジャパン
所属



受賞理由

顧客評価点はほぼ100点。エジプトで参加客の死亡といった、非常時の対応も的確なものであった。イスラム圏に造詣が深く、昨年のレバノンツアーでは、イスラエル攻撃のために戦時下の様相が勃発。空港閉鎖という非常事態に陥ったにもかかわらず、沈着冷静に行動し、現地手配会社や主催者と密に連携をとり、陸路シリア経由で脱出した。全員無事に帰国し、参加客の絶賛を博した。

Tour Conductor of The Year 2007

表彰式には、吉村委員長、西阪審議官の他、早坂、石山、菊間、清水、田川、黒川、山田各選考委員(船山委員は欠席)および国交省花角観光事業課長も出席され、受賞者の功績を称えました。

今回受賞された皆さんは、日常のお客様評価が抜群なことに加え、長年培った経験と共に、各々得意の分野を有して添乗に活かしている方が多く、更に本年3月までの1年間で添乗中の非常時における適確なトラブル処理や、出版物の発刊、特殊ツアーへの対応等で添乗という職業の魅力を高めると共に、多大な功績を挙げたことが選考の決め手となりました。

この表彰制度は来年以降も継続し、“我が国を代表するツアーコンダクターの祭典”に育て上げていきたいと願っており、添乗を専門職とする多くの候補者が推薦されるよう期待しています。



受賞者揃っての記念撮影



選考委員長の吉村作治氏



グランプリの原氏の代理として出席された原夫人

2000日添乗員の「コッコ」奮闘記

連載 ③

(株)JTBサポートインターナショナル
板橋 利昌さん

Carry on, 「永年勤続表彰」を受賞して



今、パリでこの文章を書いています。滞在ホテルは、昨年オープンした「フーケツ・パリエール」。

サルコジ大統領もこのホテルで就任祝勝会を開いた、とのこと。

今回はお客様3名の少人数旅行、日曜日の今日は視察の合間に朝からベルサイユ宮殿、そして久しぶりのトリアンを周り、午後3時過ぎにホテルに戻りました。

「永年勤続」ということで、昨年度TCSA永年勤続表彰を受け、それに寄せての一文ですが、私自身、今となっては正確に添乗日数を数える術もなく、お客様から経歴を尋ねられてもいい加減な答えしかできず、ハッキリ言ってあまり自覚がないうちに月日が過ぎた、といった感覚です。

ベストセラー『13才のハローワーク』でも、それ程将来性のある仕事とは評価されていなかった「添乗員」。こんな自覚のない私、そして多くの「仲間たち」が「永年」という域に至るのは、「好きでなきゃ

できない」仕事であり、逃げ出たくなるような時でさえ、一瞬にして、それこそ良くも悪くも「神様」の存在を信じるような心持が生まれ、その一瞬が経験によるもの、お客様によるもの、お天気でさえも味方になるからでしょうか。

こうしてデスクに向かいながらも、数分後、数時間後の自分、お客様が頭の中で交差し、来るべく最良の最終目的地をたどり続けています。

高感度なデザインで評価を得ているこのホテルも、これからさらに歴史を刻み、その呼び声も高くなるでしょう。それには、やはり「添乗」と同じく「人」あつてのこと。今後自分自身を信用しつつも固定観念を持つことなく、いつも「Evergreen」な心で「永年」に恥じることなく精度の高い「添乗」を目指して生きていきたいと思います。

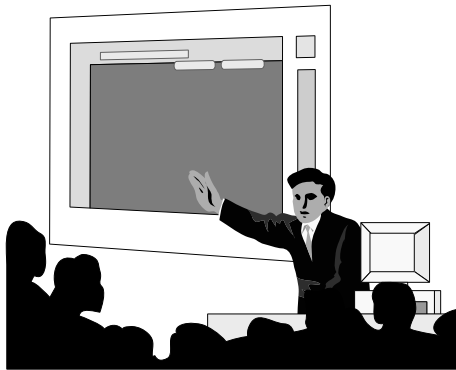
最後に「永年」を迎えても、この仕事は素晴らしい「スパイス」に満ち、そして続いていきます!



ベニス船付場にて

TCSA だより

平成19年度東京都委託訓練 (離職者等再就職訓練)を初受託、 10月開始



今年1月～3月の3ヶ月間に亘り実施した(独)雇用能力開発機構の職業委託訓練に引き続き、この度、東京都が実施する委託訓練を受託しました。10月から3ヶ月間、TCSAにおいて「ツアーコンダクター科」として旅程管理研修が行われます。1月の同機構による訓練の受講生は13名でしたが、今回の受講生は26名と倍増していることから、3ヶ月の研修修了後に少しでも多くの受講生がTCSA 会員会社に登録をするよう働きかけてまいります。

また、今年2月および7月に受託した「神奈川県シルバー人材センター」のツアーコンダクター資格取得講習会も、来年2月に3回目が予定されているほか、東京都及び埼玉県シルバー人材センターも同様に実施の意向で、現在日程の調整中です。

これらの委託事業は受講料が全て公的資金で賄われることから、受講生の金銭的負担も無く、地域限定ではありませんが状況の大変厳しい添乗員募集の一助になればと願っています。

会員動向

正会員

入会

ソリッド・パートナーズ(株)(平成19年7月25日入会・会員番号109号)
代表者 佐藤 大幸
〒812-0035 福岡市博多区中呉服町3-10 勝冶呉服町ビル3階
電話:092-283-3051 FAX:092-283-3052

移転

(株)エス・ピー・アイ あ・える倶楽部
新住所:〒150-0043 東京都渋谷区道玄坂1-19-13
トップビル並木ビル10階
電話・FAX変更無し

(株)オーリーブ

新住所:〒150-0002 東京都渋谷区渋谷1-1-7
セントラル渋谷246ビル4階
電話・FAX変更無し

(株)旅行綜研鹿児島営業所

新住所:〒892-0844 鹿児島市山之口町1-16
第10川北ビル702
電話・FAX変更無し

賛助会員

入会

特定非営利活動法人 日本ヘルスツーリズム振興機構
理事長 森 昭三
〒105-0011 東京都港区芝公園2-4-1
ダヴィンチ芝パークA館7階
電話:03-5403-2574 FAX:03-5403-2574

移転

(株)阪急交通社東京事務所
新住所:〒103-0027 東京都中央区日本橋3-9-2
第2丸善ビル7階
電話:03-6745-7330 FAX:03-6745-7334

(((編集後記)))

発足後2回目を迎えた「ツアーコンダクター・オブ・ザ・イヤー」の受賞者が決定した。候補者16名はいずれも甲乙つけ難い功績のある方々ばかりであったが、特にグランプリを受賞した原好正さんは、添乗歴34年、通算日数6696日と驚異的な経験を有する超ベテランで、障害者のための福祉ツアーに長年携わってこられた努力と熱意に改めて敬意を表したい。(T・S)

社団法人 **日本添乗サービス協会**
〒105-0011 東京都港区芝公園2-11-17 朝井ビル4階
TEL(03)3432-6032・FAX(03)3431-8698
E-mail tcsa@tcsa.or.jp
URL <http://www.tcsa.or.jp/>